

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 古い貴重な写真 24 枚 (東京天文台 100 周年記念誌資料 2-1-12)**

東京天文台 100 周年記念誌資料の整理をしており、次々と資料について記事を書いている。今回は東京天文台 100 周年記念誌資料—その 2—のダンボール箱の菓子箱に入った多数の写真の一部で、アーカイブ新聞第 349 号のリストでは、

1) 紙箱入り写真

12. 名刺判写真 23 枚 古い貴重な写真

と書かれたもので、名刺判なので小さな写真である。これらはすでに発見されているものもあり、古い写真を複製したものと思われる。裏に万年筆でメモ書されたものもある。今迄にアーカイブ新聞に掲載されたものを含めて紹介する。

写真 1、2 はツァイス製の 20 cm 彗星搜索望遠鏡である。裏面には「20 センチツァイス彗星搜索鏡」と書かれている。写真 1 は卯西儀室にあった頃の写真、写真 2 はグランド西のコメットシーカー室と呼ばれた観測小屋に納まったものである。この望遠鏡は 65 cm 屈折望遠鏡、太陽塔望遠鏡、20 cm 屈折望遠鏡などと一緒にドイツから輸入された。



写真 1

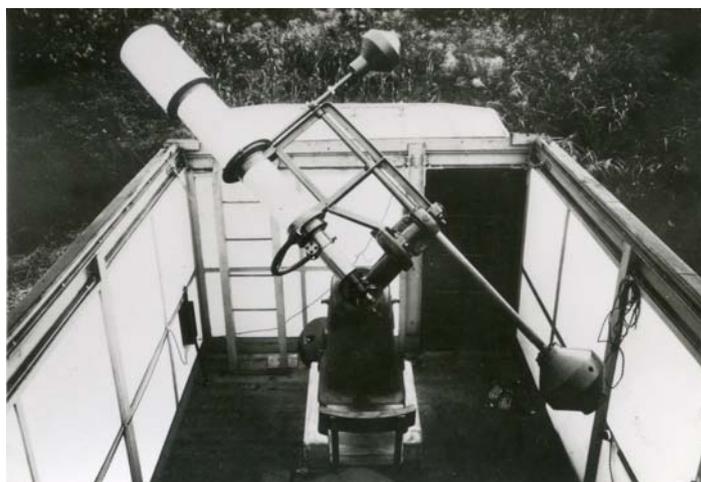


写真 2

写真 3 は、おそらくブラッシャー天体写真儀ドームの 2 階ベランダから撮影されたもので、右に 20 cm 屈折赤道儀望遠鏡ドーム、左側に昭和 20 年に焼失した旧本館、その手前に小さく白い建物が見えるが、これは太陽分光写真儀室であろう。

写真 4 は、おそらく 60m 鉄塔から撮影されたものと思われる。裏面のメモには「天文月報に載せたもの「三鷹村新天文台」」とある。右から 3 つは、ゴーチェ子午環室、レプソルド子午儀観測室、遠くに見えるのはブラッシャー天体写真儀室ドームである。左に旧本館があり、その向こうに 20 cm 屈折望遠鏡ドーム、本館の手前にはわかりにくい卯西儀室と呼ばれたドームが写っている。卯西儀室の左には 4 つの屋根の並んだ連合子午儀室が見

える。また手前には菱形基線のピラミッド型の屋根が2つ見えている。



写真3



写真4

写真5は、裏に「東京天文台全景」とある。この写真も60m鉄塔上部から撮影したものと思われるが、ひょっとすると航空写真かもしれない。この写真は興味深い写真で、よく見ると、太陽塔望遠鏡と65cm望遠鏡ドームの間に小さなドームが見える。このドームは第2赤道儀室ではないかと思われるのだが、確証はない。また、今ではほとんど見ることのないゴーチェ子午環の南北の子午線標室がはっきり写っている。また、卯西儀室南側は庭園風に整備されているように見える。また野川沿いに幅広く白く見えるものは、当時の水田ではないかと思われる。写真6が東京天文台の台地を南側から撮影したものであるが、広い水田の向こうに、太陽塔望遠鏡ドーム、ブラッシャー天体写真儀ドームが見えている。昭和初期の東京天文台付近に水田があった様子がよくわかる写真である。



写真5



写真 6

写真 7 は、65 cm 屈折望遠鏡のドームで、この頃のドームには窓があり、ドーム南側には育苗場の水貯め 2 個が写っている。ドーム左には 60m 鉄塔がかすかに見えている。ドーム周囲にはプラタナスが植えられているがまだ小さい。写真 8 は 65 cm 望遠鏡ドームの右手に図書館が見え、その右手に旧本館の屋根、その向こうにレプソルド子午儀室、その向こうにゴーチェ子午環室が見える。これらの写真にはまだ育苗場の様子が写っている。



写真 7



写真 8



写真 9



写真 10



写真 11

写真 9～11 は第一赤道儀室の 3 つの光景であり、写真 11 は旧本館前から南の方向を撮ったものである。



写真 12



写真 13

写真 12 は、正門を外側から見たところで、奥に旧本館が見える。裏面に「天文台絵葉書
の原図、三鷹村東京天文台正門及び本館」と期されている。写真 13 は旧本館玄関、ロータ
リーが写っている。この 2 枚の写真は、今までに見たことのない写真である。

写真 14 は、旧本館玄関屋上のバルコニーから撮影されたものと思われる。遠くに富士山
が写っている。この写真には遠景の山の名前を記した半透明の紙があったので、それを写
真 14 の上に入れておく。写真の状態はかなり悪く小さいのだがこの程度には印刷できる。

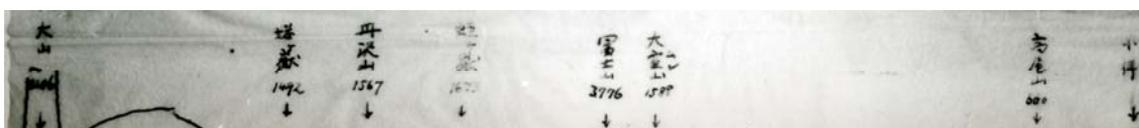


写真 14

写真 15～17 は、太陽分光写真儀室関係の 3 枚である。これらはすでにアーカイブ新聞に
登場している。写真 15 は東京天文台が三鷹に移転して最初の観測施設で 1920 年（大正 9
年）に建設されている。裏面に「太陽分光写真観測室」とある。写真 16 は第 2 代台長であ
った平山信と太陽光を写真儀室に導くサイデロスタットである。裏面に「太陽分光写真室
（サイデロスタット）、平面反射鏡で室内へ太陽の光を導き太陽の或るスペクトル線によ

って写真を撮る」と書かれている。写真17は、太陽光のカルシウムK線で太陽像を撮影していた分光器である。裏面に「太陽分光写真儀」と書かれている。この分光器は、現在、太陽塔観測室地下の分光器資料館に展示されている。



写真15



写真16

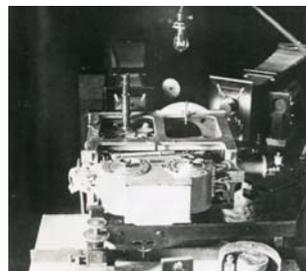


写真17



写真18

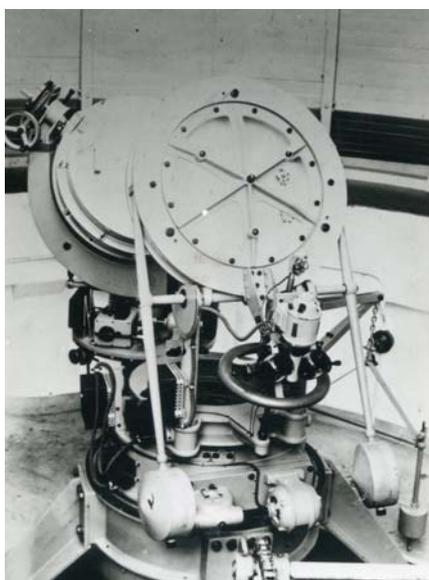


写真19

写真18は、当時、日本の中央標準時を保持していたリーフラー時計であり、裏面に昭和11年8月、「東京天文台標準時計」とメモ書きがある。写真19は、太陽塔望遠鏡のシーロスタットである。



写真20



写真21

写真20の裏面には「年代不明、沈氏記念」と書かれている、中央の人物が沈氏であろう、

向かって右に第2代台長平山信、その右が神田茂、沈氏の左に第3代台長早乙女清房、その左が梅本がおり、後ろは、左から辻光之助、萩原雄祐、水野良平、吉田、堀、石井、宮地政司、寺田、鏑木と書かれた紙があった。写真21の裏面には「清水氏入営記念」とある。

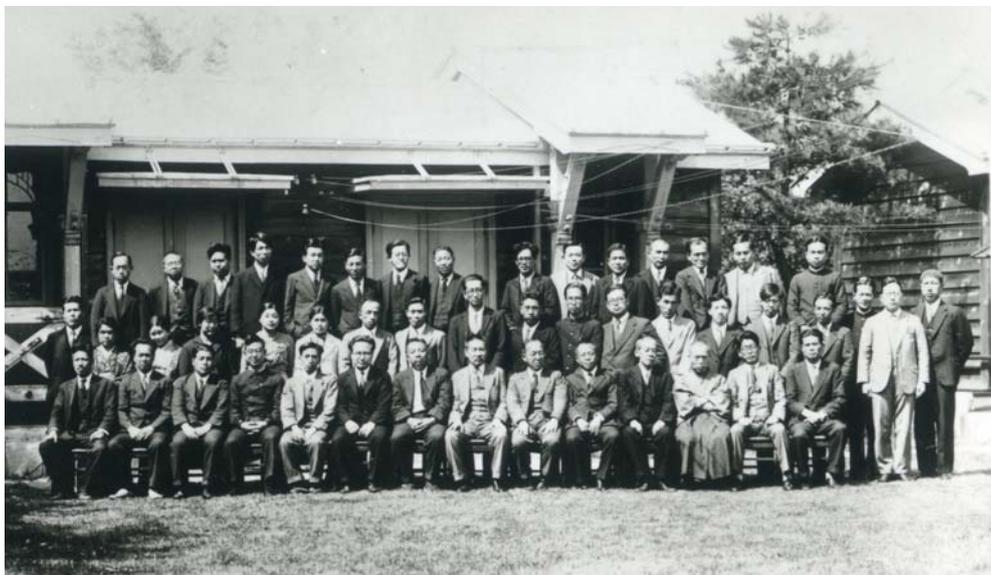


写真 22

写真22の裏面には「1936年田代氏退職記念」と書かれている。この田代氏は田代庄三郎氏であろう。彼は明治26年9月～明治44年10月、大正11年3月～昭和11年（1936年）4月在職の記録が残っている。菓子箱の中に、この写真の人物名を記した紙片があった（写真23）、これでこの写真の人すべての名前が知れる。

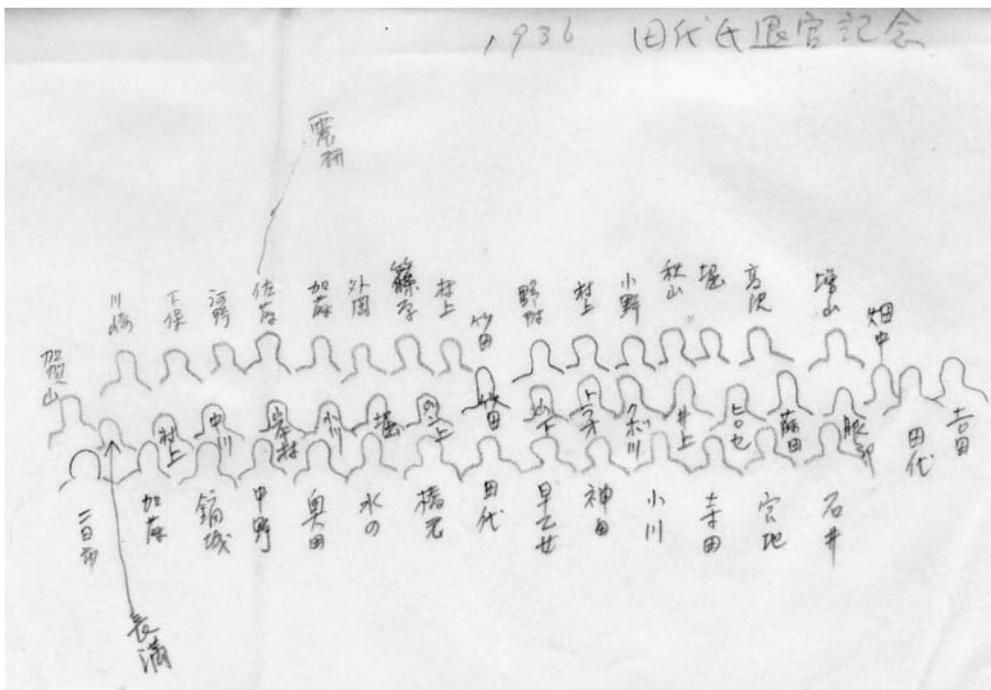


写真 23

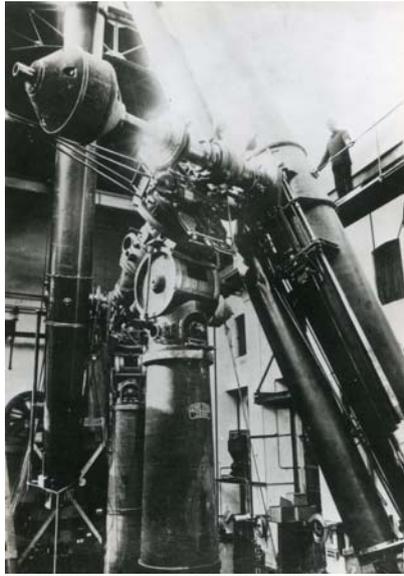


写真 24

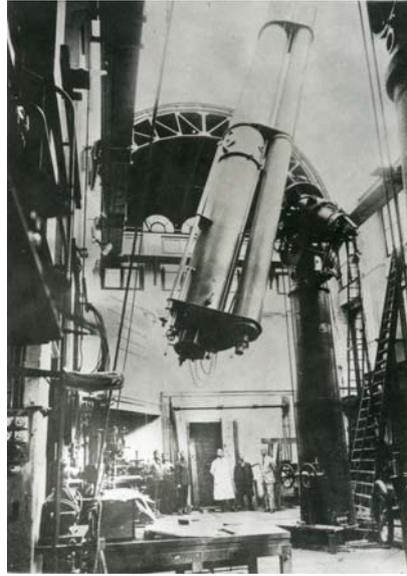


写真 25

写真 23、24 の裏面には、「ツァイス会社にて」とあり、この写真は 2 代目台長平山信がツァイスに立会検査に行った際のものである。写真 25 はすでにアーカイブ新聞に登場しているが、写真 24 は初登場である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp